

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	庄原市立高野小学校		
学校長氏名	名越 睦子	栄養教諭氏名	正田 晴香
職員数	13名	児童・生徒数	84名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食については、食べるのに時間のかかる児童はいるが、残菜量は少なく、よく食べている。また、ランチルームで食べるので、全校で食事のマナーに取り組んでいるが、食事のマナーに課題のある児童もいる。朝食の摂取状況については、高野っ子生活リズム週間で調査を行い、ほとんどの児童が朝食を食べて学校に来ている。昨年度までの調査では、朝食の内容まで把握することができなかつたため、平成 29 年度は朝食をバランスよく食べたかを把握できる項目を入れて行う。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

食に関する指導の目標

健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、児童一人一人が正しい食事のマナーや望ましい食生活の習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができることを目指す。また、楽しい食事や給食の時間を通じて、豊かな心を育成し社会性を涵養する。

- ・バランスのよい朝ごはんを食べてきた児童が、60%以上となるようにする。
- ・学校給食を通じてマナーを学び、豊かな心を育てる。給食時間の目標達成率を60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】高野っ子生活リズム週間

実施時期：6月、11月、2月の各5日間

目的：児童が生活について記録し、自分自身の生活習慣を振り返るようにさせる。

項目：就寝時間、朝食、排便、アウトメディア

高野っ子生活リズム週間前に、食育朝会や保健朝会で、朝食の大切さや生活リズムについて等の話をし、5日間頑張りたいことを決めて取り組むようにさせる。結果を食育だよりや保健だよりに記載し、家庭への啓発も行った。

6月高野っ子生活リズム週間 (アウトメディアにチャレンジ)					
☆生活リズム目標 ()					
☆アウトメディア目標 ()					
	19日 (月)	20日 (火)	21日 (水)	22日 (木)	23日 (金)
就寝の日、何時におきましたか A: 9時まで B: 9時30分まで C: 10時まで D: 10時より遅					
朝ごはんを食べましたか A: (トランスファイト)朝ごはんを食べた B: 朝ごはんを食べなかった C: 昼とAと食べなかった					
排便記録 (うんこ) はしましたか A: 排便した B: 排便しなかった C: 排便しなかった					
アウトメディアにチャレンジ ①Aだけコース A: 1だけ B: ひまわり C: ひまわり D: ひまわり E: ひまわり	コース ()	コース ()	コース ()	コース ()	コース ()
何をしておきましたか (画) 日記・写真・録音など					
自分の反省や感想			お家の人がの		

【取組2】給食時間の目標（マナーの定着）

取組内容：給食時間の様子からその月の給食目標を保健委員会に立てさせ、全校で食事のマナーの定着に取り組むようにさせる。

目的：食事のマナーを振り返らせ、食事のマナーの定着を図る。

評価方法：給食時間の様子を自己評価させ、クラスでまとめて代表者が発表するようにさせる。



給食目標にあった展示や掲示物を作成し、児童の意欲を高めた。

保健委員会が給食目標を考え、児童へ啓発をする。

【取組3】全国学校給食週間

取組内容：中学生の作成した献立を、5日間実施する。

実施期間：1月23日～1月30日

目的：栄養バランスのよい献立を考える力を育てる。（中学校）

中学生との会食を通して、食事の楽しさを感じ、感謝して食べる心を育てる。（小学校）

事前に中学校の家庭科の授業で、TTで授業を行った。生徒は、給食の献立がどのような条件で考えられているのかを学習し、テーマを決めて献立を作成した。調理場では、全国学校給食週間に合わせて、中学生が考えた給食を提供した。その初日には、中学生が小学校を訪問し、作成した献立についての発表を行った後、小学生と一緒に給食を食べた。取組内容をまとめたものを自治振興センターに掲示することで、地域の方へ学校での食育の取組を知ってもらう場を設けた。



中学生が小学校を訪問し、献立作成で工夫したところについて発表する。



献立を考えた中学生と、ランチルームで一緒に給食を食べる。小学生は中学生にお礼のメッセージカードを作成する。

【取組4】食育担当者会（小学校・中学校・共同調理場の連携）

目的：学校給食の運営や食育の推進を組織で行っていくため、食育担当者会を設置している。

メンバー：小学校長（共同調理場所長）、中学校養護教諭、小学校養護教諭、栄養教諭

活動内容：食育の計画・実施、給食に関する反省、食物アレルギーのある児童や除去対応についての情報共有、異物混入や食中毒などの対応についての協議、教材づくり（夏季研修）、学校給食週間、保育所訪問など

▼夏季研修として行った教材作り



▼保育所訪問



毎年、保育所・小学校・中学校・共同調理場の連携の一環として、食育担当者会で保育所を訪問している。今年度は食事前の手洗いの大切さやポイントについて劇を行った。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

庄原市内の調理場の栄養士で、庄原市統一献立の作成、調理実習、各学校での提供を行った。比婆地域で昔から食べられているワニやえごま等を使用し、庄原市の産物や食文化についての理解を深めた。

～献立名～

- ・ごはん
- ・磯の香りのワニフライ
- ・庄原たっぷりあえ
- ・熱く燃える!!Cスープ



庄原産の食品を6つ、広島県産の食品を3つ使用し、地域の食品を味わえるようにした。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

高野っ子生活リズム週間では、6月と11月の結果を比較すると、「バランスよい朝ごはんを食べた」と答えた児童が全体では1割増えており、バランスよく食べることを意識している児童が増えている。

丁寧に配膳する、時間内に食べる、迷惑にならない声の大きさと話すなど、食事の準備やマナーが身に付いている児童が増えた。

【課題】

朝食の摂取状況は児童によって個人差が大きく、朝食を食べてこない児童は共通して就寝時間が遅い。保護者からのコメントから、朝食を用意してあっても時間がなく食べていないことが分かる。排便がなかった児童が、6月に比べて増えており、5日間1度もない児童や5日間に1度しか出ていない児童もいる。

正しくはしを持つ、茶碗を持って食べる、よい姿勢で食べるなどが定着していない児童もいる。自己評価だけでなく、客観的な評価も必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

朝食欠食のある児童を減らし、バランスよく食べる（赤・黄・緑がそろっている）児童の増加を目指す。そのために、食育朝会や各教科等における食に関する指導では、生活リズム調査の結果を活用し、児童に自分の生活習慣について考えさせ、実行への意欲を高めたい。また、簡単に作れる朝食レシピの紹介をするなど、家庭への啓発もしっかり行う。

食事のマナーの定着については、給食時間のルールと配膳マニュアルの見直しを行い、学校全体での共有をする。学級担任等が評価することのできるマナーのチェック表を作成し、客観的な評価も行えるようにする。